

取組実績の概要 【2ページ以内】

構想に基づき連携ワークショップ米国+欧州+日本の3つの異なるデザイン教育プログラムを有する大学が協働するプログラムの構築と実践を行った。主な取り組みとして、協働プログラムの開発とその実施、交換留学における派遣と受入れによる協働教育、学生の短期受入れ・短期派遣を行う留学導入プログラムの実施、プログラム方針に基づくデザイン授業の実施、学生の英語能力の増進を行った。また、それらを遂行するための体制とシステムをつくりあげていった。協定大学は、構想時は米国3大学ならびに欧州4大学であったが、補助期間中に米国4大学ならびに欧州10大学に拡大した。それらの大学のさまざまな領域の教員との交流と協議を経て、多様なプログラム開発を進めた。

Program B7M5は千葉大学と協定大学においてシームレスにデザインを修学するプログラムであり、千葉大学から派遣される学生のモデルケースは、学部を3.5年で早期卒業し、進学した大学院修士課程における初年度に1 Semesterずつ2つの協定大学への交換留学を行い、帰国後に千葉大学大学院において修士研究を進めて修士課程を修了するというものである。平成24年度よりパイロットとして学部4年生を後期から2大学へ派遣し、本事業開始と同時に改訂された履修課程に沿って平成27年度には正規に早期卒業した学生を派遣した。

CODE交換留学プログラムでは、学生の修学目的に沿って協定大学の特徴を勘案したうえで、異なる教育カリキュラムを組み合わせ、その知識技能を獲得するように派遣先を選定した。実施事例として、1校ではDesign for Citizenshipを学び、もう1校ではサービスデザインとインタラクティブデザインを学ぶ、あるいは1校では工作工房でのプロトタイピングを中心にしたクリエイティブデザインを学び、もう1校ではストラテジックデザインを学ぶといった交換留学があげられる。異なる大学において1 Semesterずつ二カ国へ交換留学を行うというタフなプログラムを遂行した学生は、それぞれの大学で知識技能を学ぶだけでなく、社会環境の違いや文化や考え方の違いを肌で感じるにより、まさに多様性の観点から、目的意識の持ち方や物事を進めるプロセスのありようの相違について考えていく視点を涵養している。

千葉大学デザイン学科・専攻では、CODE-Programの実施に従い、従来の教育課程と連携してプログラムの趣旨に適合するように授業を整備した。学部・修士課程ともに英語の授業を開講して、受入れ外国人学生が履修するとともに日本人学生の英語による履修を促進した。例として、演習授業である「プロダクトデザイン1, 2, 3, 4」では英語指導のクラスを設定し、あわせて学習進度別に受講可能な学年横断型授業として再構成した。日本人学生の履修において、英語履修の導入、交換留学の動機づけ、グローバル視点の育成の効果がみられた。

また、日本人学生と外国人学生の協働学習プログラムとして英語開講の授業を新たに設置した。「グローバルデザインスタジオワーク1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8」は、年度ごとに、実施要求される社会課題、先端の思考方法、製品の価値創造について授業テーマを設定する授業であり、サービスデザインのリサーチ手法、五感を生かすインタラクションの考え方、パッケージのブランド構築などの内容を実施した。「グローバルデザインプロジェクト1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8」では、企業が設定するデザインプロジェクトに取り組むPBL (Project Based Learning) 演習授業を実施した。これらの授業では、電子情報技術を核とするプロダクト&サービスを創造する観点から、CODE-Programの海外連携の観点において、日本の特質を組み込んだデザイン教育プログラムを提供していった。

海外大学アライアンスプログラム (CODE短期留学プログラム) は、2週間以上の短期派遣・短期受入れを伴う授業として実施し、履修生は千葉大学と協定大学がともに発行するプログラム修了証を受領した。補助期間において海外大学アライアンスプログラムを派遣20件、受入れ21件の41件を実施した。そのうちの3大学協働国際教育プログラムは、千葉大学、Parsons the New School for Design (米国; Parsons)、Glasgow School of Art (イギリス; GSA) との米欧日連携の規程プログラムとして構築した。年度ごとにプログラム内容を構築した上で9月から翌年2月にかけて3大学の学生が同一の課題に取り組み、中間段階で千葉大学の学生が2グループに分かれてParsonsとGSAへ2週間ほど渡航してリサーチとワークショップを実施し、最終段階ではParsonsとGSAの学生が同時期に千葉大学へ来学して2週間の間にワークショップと最終発表を実施した。海外大学アライアンスプログラムでは、あわせて、多様性に向けた2大学連携ワークショップを実施した。領域横断ならびに総合化の知であるデザイン学の特質に応じ、アールト大学 (フィンランド)、ミラノ工科大学 (イタリア)、ENSCI-LesAteliers (フランス)、KISD (ドイツ) などの協定大学と協働して、それぞれの大学のデザイン教育の特質を組み込んだ連携プログラムを構築し

た。

海外大学アライアンスプログラムで実施するワークショップでは協定大学と千葉大学の学生が混成した少人数のグループワークで活動した。千葉大学の学生は、学部と修士課程の異なる学年の学生が参加し、初めて参加する学部生は自分の考えを英語で発言して意思疎通を図ることに精励し、CODE-Program履修が進んだ修士課程の学生はグループワークを上手に進めるリーダーシップを持つことが求められる。履修学生にとって、海外大学の指導に触れる機会であり、将来の留学への導入プログラムとなった。

本構想における欧州+米国+日本のそれぞれの異なるデザイン教育は、欧州＝design and promotion/design for society, 米国＝design management/design strategy, 日本＝デザインdesign and technologyと考えており、日本においては創造型産業を牽引する電子機器やソリューションプロバイダーの企業、自動車産業、中小企業、ならびに地方自治体からの支援と協働を得て、専門家の知見を取り入れ現実の課題に即して構築したPBL授業を実施することにより、視野を広く持った先端のデザイン教育カリキュラムを構築した。ウェアラブル機器の可能性、Internet of Thingsを活用した生活提案、あるいは、生体情報計測などの技術シーズを活かすアドバンスデザイン、震災復興支援、次世代の写真利用などのテーマを授業で取り上げ、先端企業の現在の知識を導入し、デザイナーの指導や講評を得ながら授業を実施した。千葉大学をハブにしての企業と海外大学との国際的協働は、現実の社会課題と企業の知見を大学教育に導入する効果を持つだけでなく、協働した企業においても、欧米で行われているサービスデザインなどのデザイン方法論の確認、若手中堅デザイナーが海外でプログラム指導を行うトレーニングなどの効用があり、産学相互のグローバル人材育成として有益な成果を得た。

履修学生は、英語開講のデザイン演習、海外大学アライアンスプログラム、二カ国の交換留学を経て、グローバルな視野を持って人々の価値観を理解する精神を涵養し、そのうえで、海外における異なるデザイン開発のアプローチを理解し、さまざまな社会課題に取り組む意欲ならびにデザイン技術や生活行動をリサーチする意欲を養っている。修了生の多くが日本のグローバル企業のインハウスデザイン部門に就職し、プロフェッショナルデザイナーとして活動し始めている。

CODE-Programの実施に伴い、履修課程改訂、単位互換、成績管理など学務上の課題、また参加学生の募集や選考などの課題を抽出し、それらの手続きを適正かつ円滑に運用できるように制度の整備を進めた。学生の派遣と受入れにあたっては、学生情報の交換、履修支援、生活支援など、さまざまにフォローする事柄が生じており、それらに対しては、構想した千葉大学における教員、アマヌエシス、部局学務、International Support Deskの4重体制に、協定大学の教員ならびに留学担当職員を加えた6重体制として対処して運営した。アマヌエシスは本事業で構想した留学学務コーディネーターであり、派遣と受入れ双方の留学生の履修支援ならびに協定大学の留学担当学務との連携において重要な役割を果たした。千葉大学ではアマヌエシスが担う機能を、より高次の機能を果たすSULA（スーラ Super University Learning Administrator）の登用へと展開し、教職中間ポストのモデル確立を進めている。

構想時の目標を上回る学生交流を達成し、補助期間におけるCODE-Programの実施を通してデザイン領域における欧米のリーディング大学とそれぞれの特質と強みを相乗させたグローバルな先端デザイン教育プログラムを確立した。千葉大学のデザイン学科・専攻として日本の高い技術を発揮するデザイン教育を協定大学に提供し、協定大学は本プログラムの意義を重要視しており、ダブルディグリー・マスタープログラムの設立を含めてカリキュラム連携の強化を進め、改良したプログラムを継続して推進している。

【本事業における交流学生数の計画と実績】

	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
計画※	3人	12人	17人	20人	27人	28人	25人	34人	20人	28人	92人	122人
実績	9人	25人	35人	36人	54人	57人	31人	43人	31人	44人	160人	205人

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。